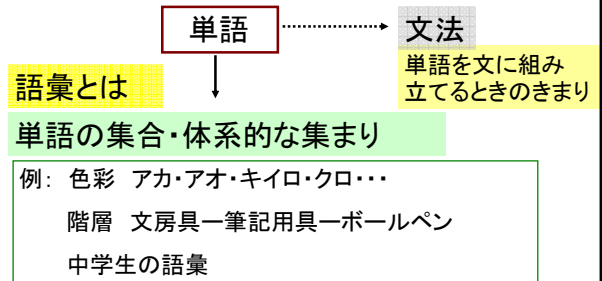


# 概念をあらわすことばの学習 ～語彙習得を中心に～

言語・学習指導室  
葛西ことばのテーブル  
三好純太

## ★語彙とは何か



## 品詞分類

名詞

動詞

形容詞

副詞

接続詞

その他

助詞

## 語彙能力の評価

- 品詞別
  - \* 事物名称→動詞→形容詞
- 抽象度
  - \* カテゴリー概念(動物・野菜etc)
  - \* 色名
  - \* 漢語理解(「成功」「完了」etc)
- 理解・表出
  - \* 日常コミュニケーションでの運用

成人日本語話者で理解語彙は4～5万語、使用語彙は1～2万語

## 語彙能力の評価

### ■評価バッテリー

ITPA言語学習能力診断検査

絵画語彙発達検査(PVT)

S-S法 言語発達遅滞検査

ウェクスラー式知能検査

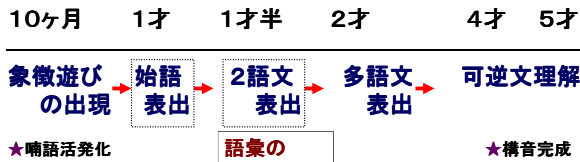
他

↓  
+ 独自作成の検査で、評価している

反意語／上位カテゴリー語／位置語 など

## 言語習得における語彙の発達

●コミュニケーション関係の発達【幼児期】



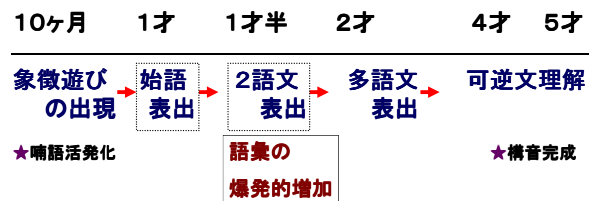
●語彙の発達

	●習得語彙数(表出)	●習得語彙の特徴
1才半	50語	事物名称が中心 幼児語が多い 半記号的
2才	200~300語	述語(動詞・形容詞) の増加
4才	1000語	抽象語の増加

●語彙発達の特徴～初期50語まで～

- 獲得の速度がゆっくり
  - 消失語が多く、定着度が低い
  - 語の過大般用が多い
  - 事物名称が中心
  - 最初期は、大人との社会相互作用に密着したことばが多い(挨拶など)
  - 理解と産生の間には、およそ半年の差(理解の裾野の必要性)
- 半記号的性質

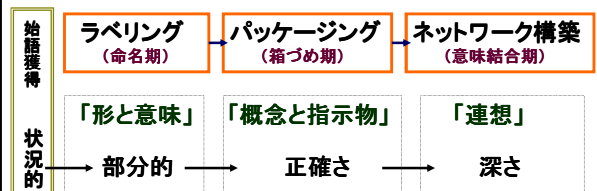
●コミュニケーション関係の発達【幼児期】



●語彙発達の特徴～50語以降～

- 50語を境として、語彙は急速に増大
  - ・命名の洞察
  - ・語の使用範囲の限定
- 50~100語産生で、2語文に移行
- 200語以降、動詞・形容詞などの述語が増加
- その後、徐々に助詞・助動詞などの機能語、抽象名詞が増加

★語彙習得の過程(Aitchsonの3過程)



ことばの関係式化を進めよう

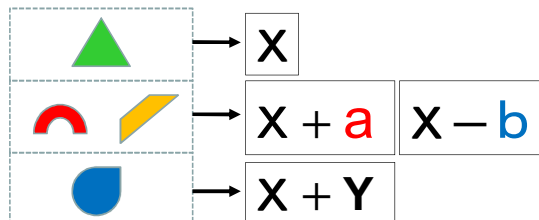
関係式化

=ことばとことばの関係づけ

ことばの関係式化を進めよう

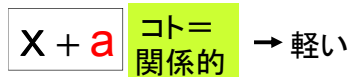
ことばを「モノ」から

「コト」にして行く



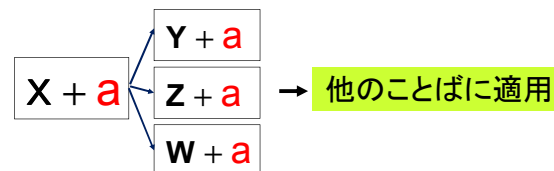
なぜ関係式化を進めなければならないか

1:1対応の暗記的習得では記憶容量に限界



なぜ関係式化を進めなければならないか

関係性洞察の蓄積が自然習得を進める



ことばの関係式化

●文法の関係式化

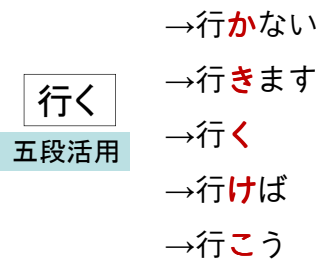
●音韻の関係式化

●意味の関係式化

日常コミュニケーションの中で、無意識に関係性が洞察されて行く

●文法の関係式化

動詞の語尾活用



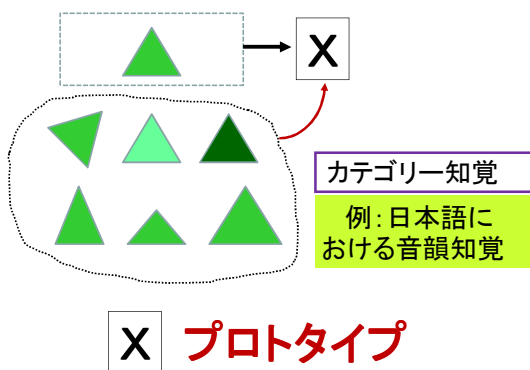
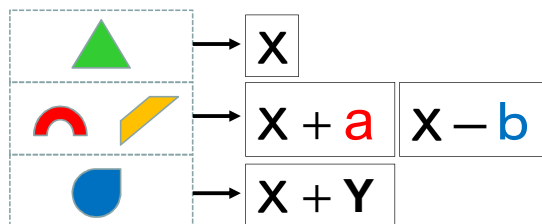
●音韻の関係式化

複合語の音韻変化

うで+とけい →うで**ど**けい  
 こうもり+かさ →こうもり**が**さ  
 つり+はし →つり**ば**し

\*無声語頭音の有声音化

●意味の関係式化



プロトタイプ  
 prototype  
 事物や事柄の典型

~らしさ

プロトタイプ



~らしい



~らしくない

## プロトタイプを形成する

→ 典型を形成する

● プロトタイプを決める因子とされるもの

- \* 知覚的顕著さ
- \* 親しみ度
- \* 頻度
- \* 機能的顕著さ
- \* 文化的意義 など

## 事物名称におけるプロトタイプ

車

典型例

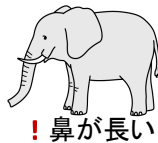


非典型例



## 代表作用

その物の特徴の中から  
何を代表とするか



イメージ

言語習得の初期に  
おいては、**形態の  
特徴**の抽出が重要

概念の形成

● イメージ能力の大切さ

眼前にないモノ・コトを想起する



## 名称習得における 表現活動の重要性

クジラの絵  
を描いて



● さまざまな表現 = 作品の鑑賞を  
通してプロトタイプを作る

→ 表現の産生 \* 自由さと規範

\* 絵カードの作成

プロトタイプを描く



★ 100人全員が「コップ」と答える

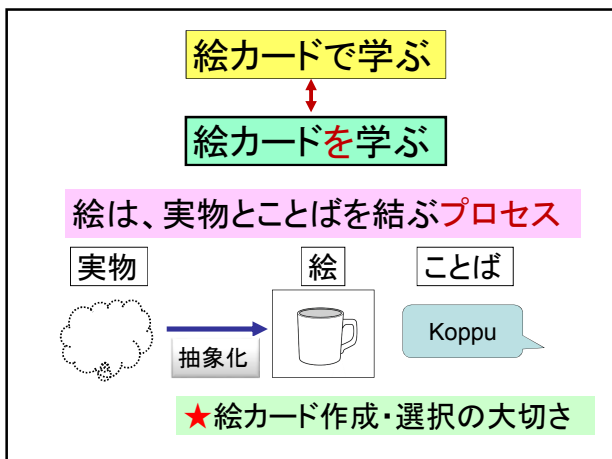


絵カードがわかる

共有するプロトタイプが  
できている

絵カードで学ぶ

実物を記号化するプロ  
セス \* 抽象化 = 典型化



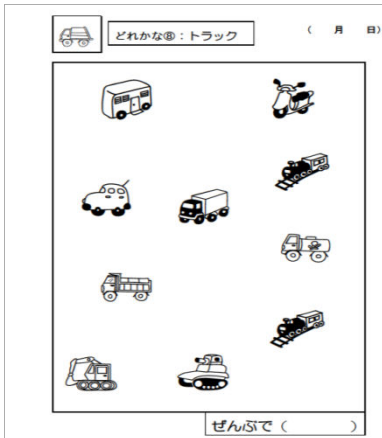
**プロトタイプ未形成と判断される状況**

- 名称が、特定の事物や絵カードとのみ対応
  - 自分の家のダックスフンドだけを「ワンワン」だと思っている
- 名称の過大使用・過小使用
  - ゾウを見ても「ワンワン」と言う

**プロトタイプの評価と学習**

**同名称抽出**

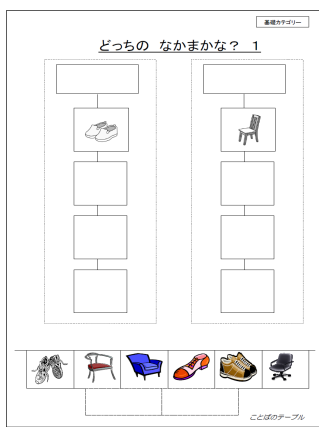
- トラックらしさの感知



**プロトタイプの評価と学習**

**同名称分類**

- 名称への気づき



**プロトタイプ形成の意義**


名づける対象を明確化

少ない容量で情報を処理する

\* 曖昧さの除去

画像から X へ → 言語習得を推進する

**記号化**



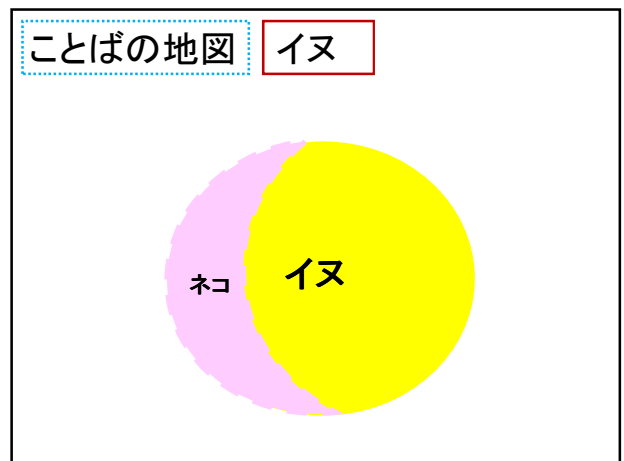
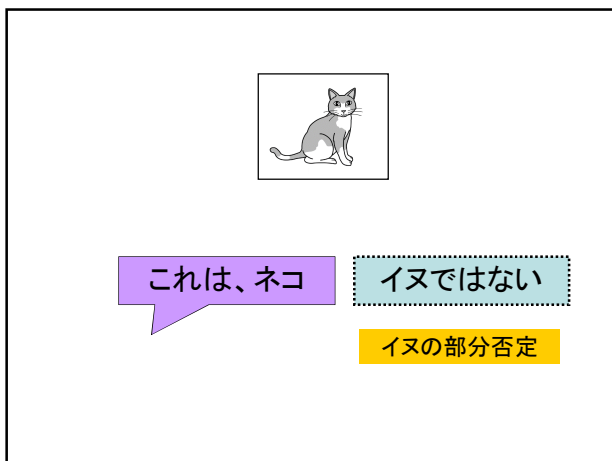
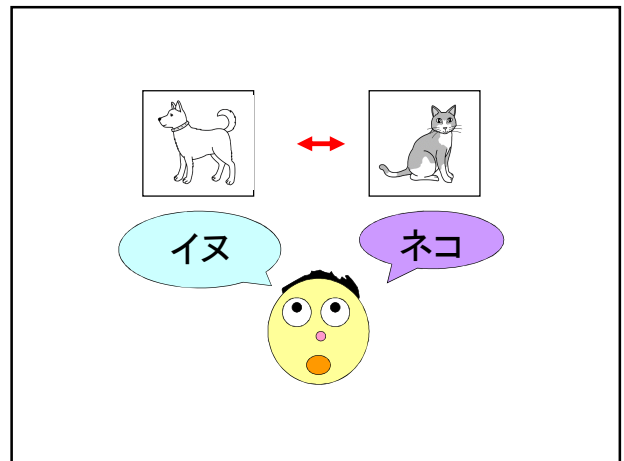
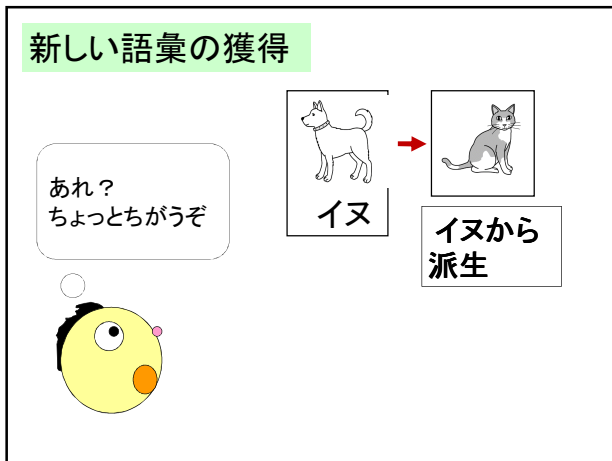
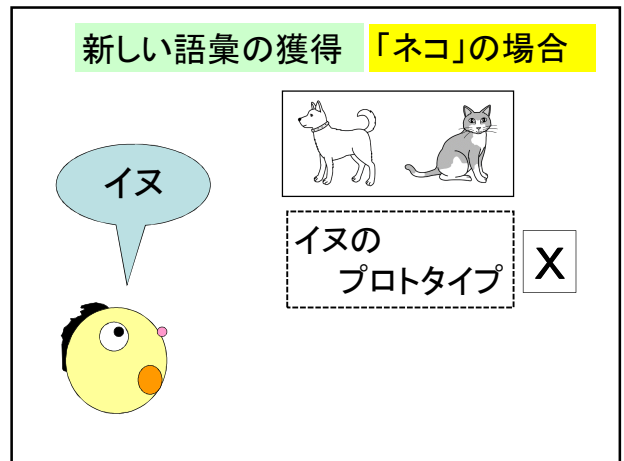
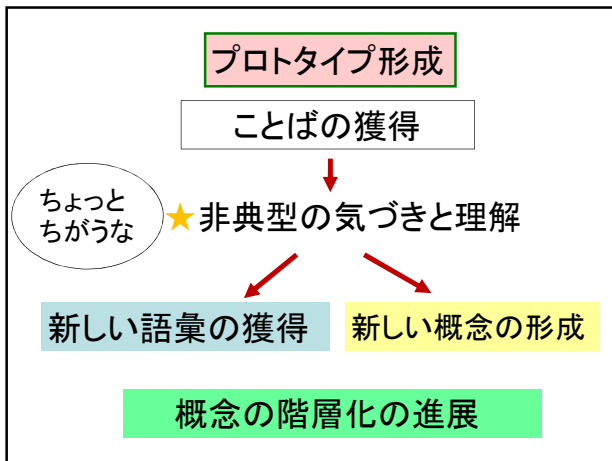
**プロトタイプ形成の意義**

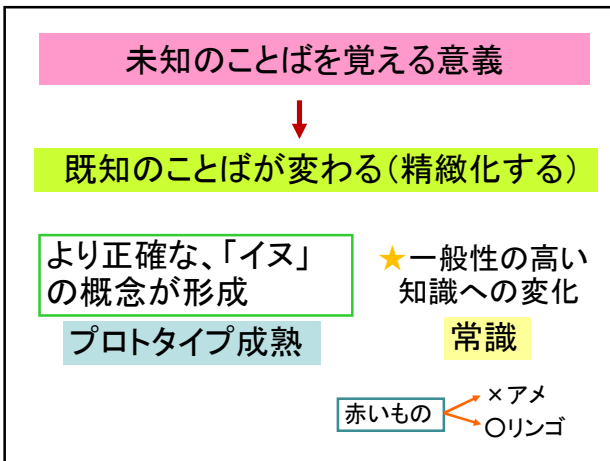
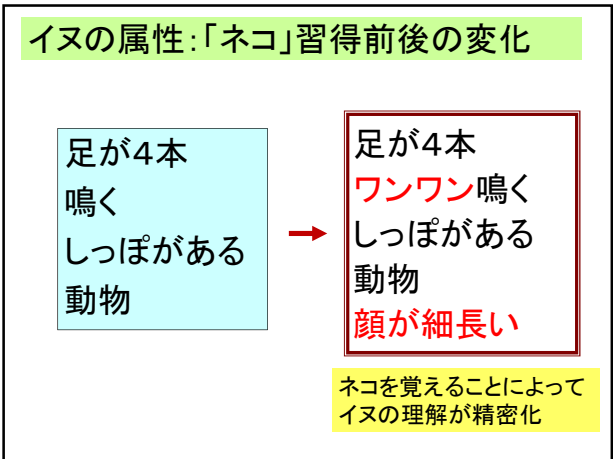
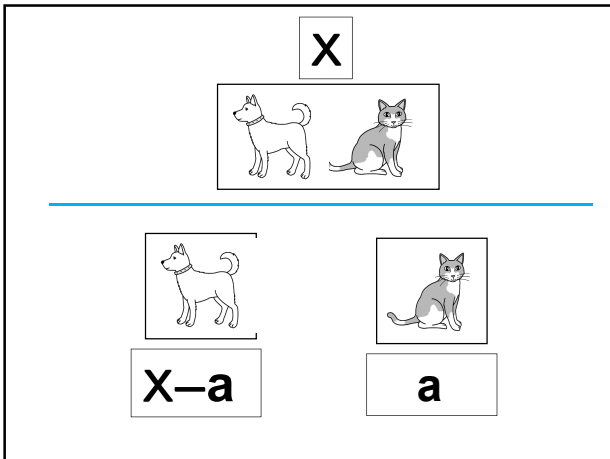
↓

**認識の高度化を進める**

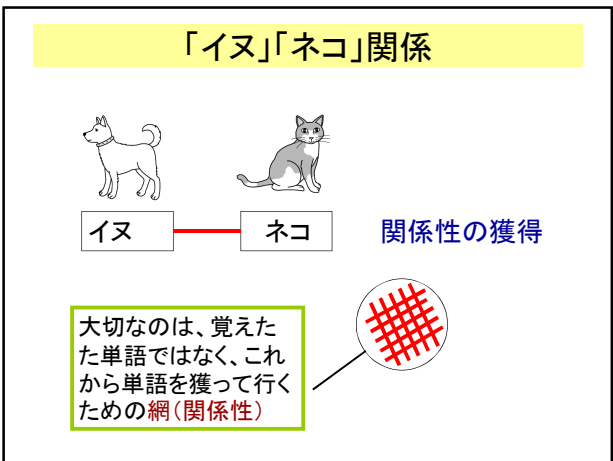
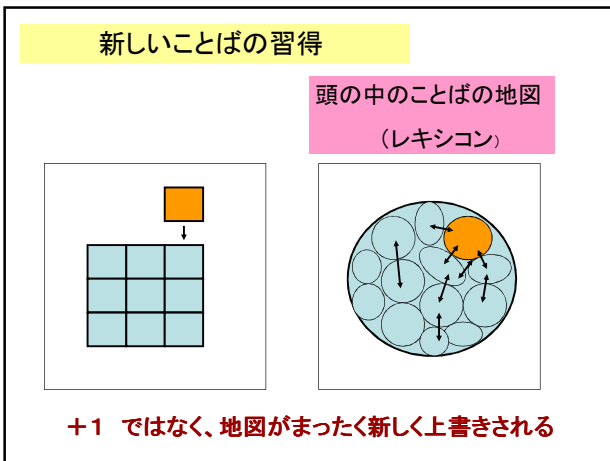
↓

**ことばの精緻化・ネットワーク化を進める**





ひとつの言葉を得ることは、それまで作り上げてきた言葉の世界全体を塗り変える






**関係性獲得の意義**

↓

**他の概念形成への寄与**

おなじようなものでも、いろんなものがあるんだなあ・・・

★「コップ」と「カップ」のちがいに注目  
細長いのが「コップ」で、広くて浅いのが「カップ」



ほかのことば(概念)の精密化への応用

**語彙の増加 = 新しい概念の形成**

↓

**概念の階層化の進展**

上位概念 → 基礎カテゴリー → 下位概念

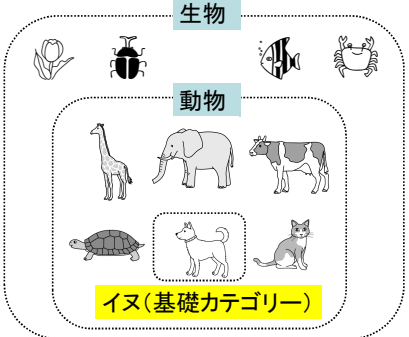
動物・果物 → イヌ・リンゴ → スピッツ・ふじ

**カテゴリー概念の階層**

生物

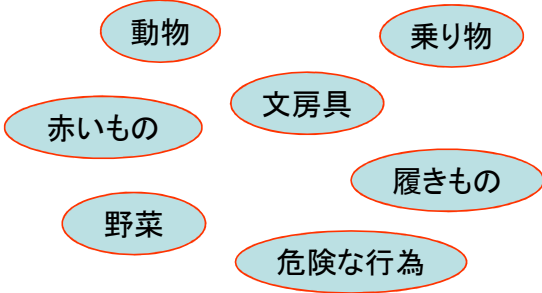
動物

イヌ(基礎カテゴリー)



**カテゴリー概念のいろいろ**

動物, 乗り物, 赤いもの, 文房具, 野菜, 履きもの, 危険な行為



**カテゴリー概念の形成順序**

特徴的分類から、  
定義的分類へ進む


動物 → 乗り物 → 文房具

**カテゴリー概念の形成①**

動物

特徴的分類  
形の類似性

\* 形状バイアス  
こどもは、まず形で仲間わけをする



**カテゴリー概念** **動物**

イヌ  
ネコ  
ゾウ

非典型の発見  
→  
語彙の増加

イヌ・ネコ・ゾウ・サル  
ブタ・ウマ・ライオン  
etc...

★共通な形態・属性  
などの抽出が進む

動物

動物

こういうのが動物か...

**カテゴリー概念の形成②**

乗り物

\* 形状は多様

形の類似性から

↓

定義の  
共通性へ

**カテゴリー概念** **乗物**

形はいろいろ・・・  
みんな「のりもの」?

乗物

あ、乗ってどこかに  
行くものだ!

**より定義的分類へ**

楽器	機能的分類
はくもの	動作的分類
赤いもの	属性的分類
楽しいこと	心理的分類

**カテゴリー概念と ことばの関係式**

●スピッツ<イヌ<動物<生物

●バナナ≡くだもの-赤い-丸い

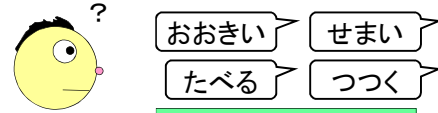
**ことばと ことばの関係の洞察**

## 動詞や形容詞の習得

- ◎ 事物名詞  
= 即時マッピング (1回の経験で覚えられる)
- ◎ 動詞・形容詞・文法 (助詞・動詞活用) は困難  
↓  
経験の積み重ねから、類推して習得  
(パターンの蓄積)

## 形容詞や動詞の特質

- 習得のためには、類推・比較能力が必要



相違点・類似点の抽出

ことばと、ことばの関係式を、  
複雑化して行かなければならない

### 共通性の洞察

### なかまわけ課題

光るもの  
切るもの

機能や性質  
によって分類

どっちの なかまかな? 13

### 対概念課題

なかまを くっつけよう!

## ことばの意味の類推を促すもの

### ● 文脈の手がかり

- \* 既知のものに対して、言われたことば「りんご」のことじゃないな...

### ● 文法の手がかり

- \* 各品詞らしさ \* 文中の位置
- ・形容詞: 「～い」 ・動詞: う列音で終わる
- ・語尾の活用 ・形容詞は名詞の前につく

### ● 違いの大きさ

### ● 対比(コントラスト)

## 違いの大きさ・明確さ

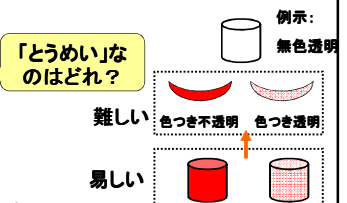
### ● 違いの大きさ

- \* 違いの大きな比較
- \* 違いの小さな比較



### ● 違いの明確さ

「どうめい」という性質の学習例

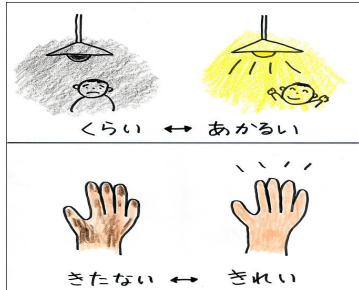


今井むつみ他「レキシコンの構築」より

● 対比(コントラスト)

違いの大きなもの・相反するものを、同時に提示する

反意語の学習



対比を用いた学習の効果について

● 意味の似た語の同時学習

\* 第2言語習得では効果的ではないとされている

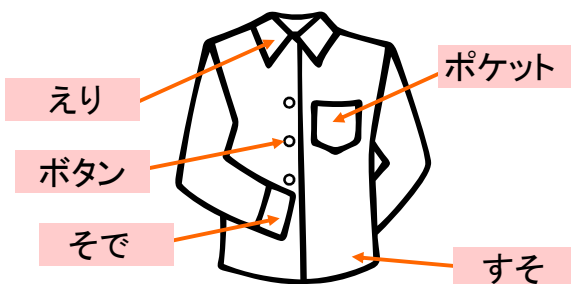
似たことばをいっしょに学ぶのは覚えにくい

→ 語同士が干渉しあい、記憶を妨げるから

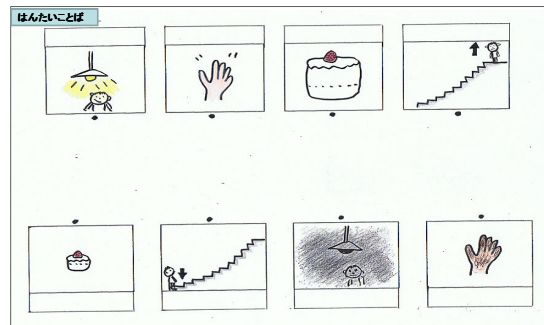


概念の理解のためには必要

名称の学習(洋服)



反意語の学習



共通点と相違点の洞察 → 概念への気づき・明確化

反意語における ことばの関係式

明るい = X    暗い → 明るくない = 非 X

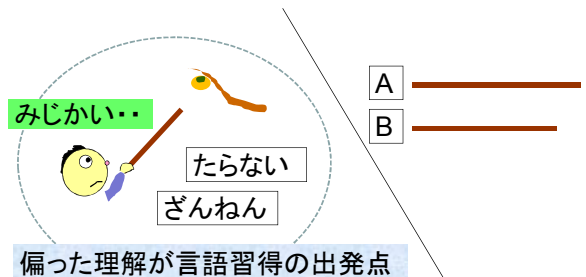
・・・と、ばかりは言えない

日常の中では、「明るい」と「暗い」が、同時に提示されることは少ない



日常の中での発見や驚きが  
ことばを支え、運用を促して行く

言語習得におけるムードの大切さ



偏った理解が言語習得の出発点

ことばを支え合う タテとヨコ

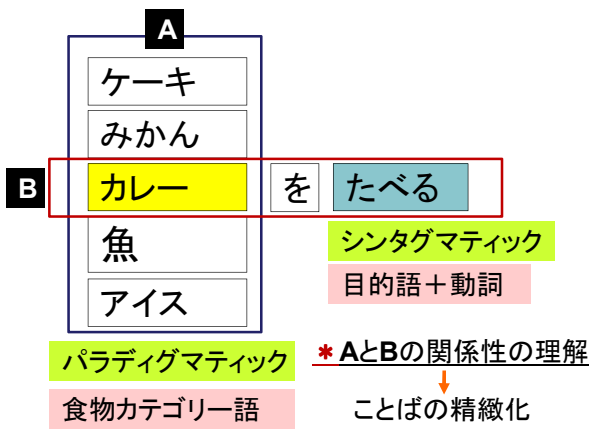
シンタグマティック と  
パラディグマティック

シンタグマティック 統合関係

\* 語と語の文法的な結びつき

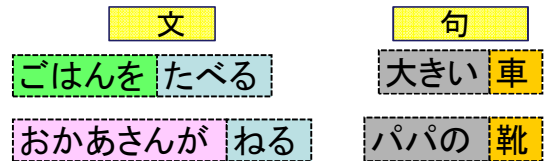
パラディグマティック 連合関係

\* 文の中で入れ替え可能な語の集合



連語関係からの推測

連語: 2語以上の語が連結したもの



\* 動詞文=格助詞で連結

100枚プリント  
連語練習ワーク

連語練習 2 なに(に)のる? (月 日)

のる

のる

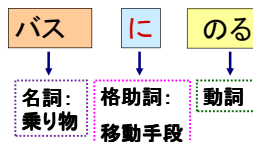
のる

のる

©2009-2011 ことばのつら

連語練習ワーク

問題例: ~に乗る



連語練習 2 なに(に)のる? (月 日)

に のる

に のる

に のる

のる

©2009-2011 ことばのつら

**ワークのパターン** ●「名詞+助詞」●最後に文を創作

**各問題のパターン**

～を あらう      ～が いる      ～に いく

**100枚プリント 連語練習ワーク**

**学習目的**

- 連語における、語と語の**関係性の洞察**

↓

**パターン学習**

同じ構造の問題に、繰り返し取り組む  
ひとつひとつの単語を覚えさせるのではなく、無意識の内に、語と語の**関係性**に気づかせる

**連語学習課題**

ことばをかえて  
いってみよう

各動詞に対応する  
事物絵を選択して貼る

↓

名詞を入れ替え  
ながら文を表現

練習問題  
タイプ ことばをかえて いってみよう 4

① 

		が とぶ

② 

		が はしる

連語を用いた  
形容詞の学習課題

ことばをかえていってみよう  
【熱い／冷たい】

① あつい 


② つめたい 


**助詞がわかることの大切さ**

コンロギで切る → コンロギは、道具だろう…

クヌアに入れる

シナフを飲む

未知の語を事物と同定する

未知の語をイメージする

**100枚プリント 語彙選択ワーク**

**判断文ワーク**

**動詞文ワーク**

あっていることばは◯をつけよう 1 (月 日)

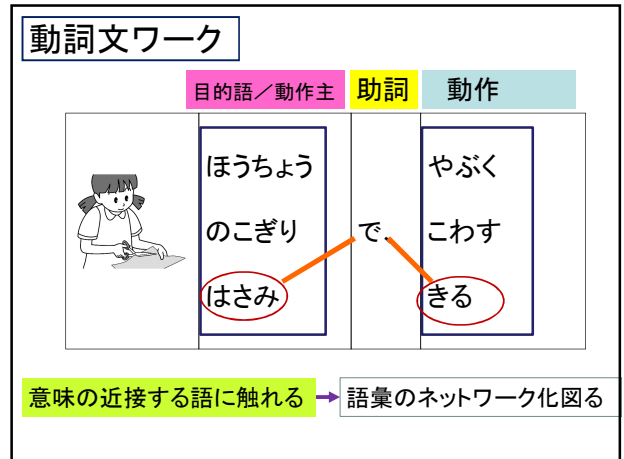
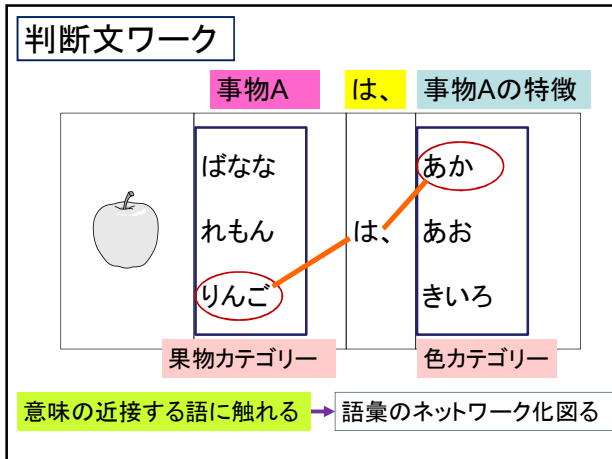
ねこ	やさしい
さる	は、どうぶつ
いぬ	のりもの

くるま	あるく
ひこうき	は、およぐ
ふね	はしる

ばなな	あか
りんご	は、あお
れもん	きいろ

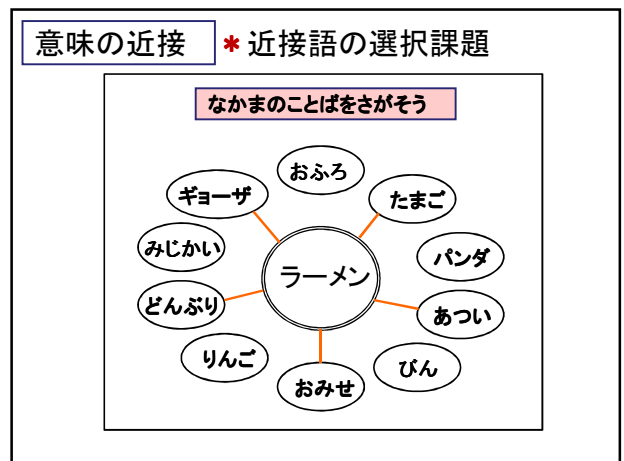
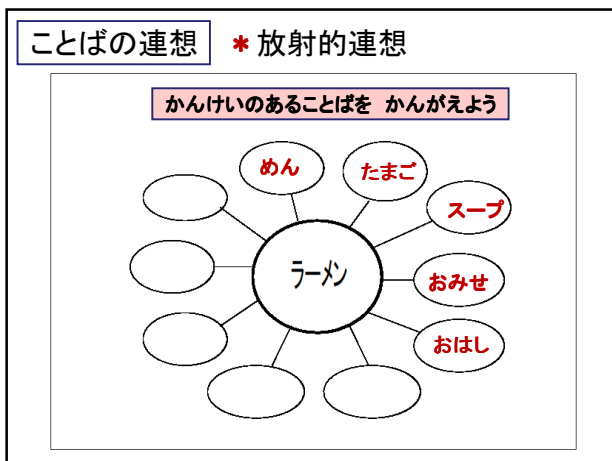


語彙のネットワークと会話


語彙のネット(網)が会話を支える

ことばの連想  
 \* 放射的連想 \* 連鎖的連想

ことばの位相  
 \* 階層性 \* 条件性



**\* まちがっているところを なおそう**

 すべりだい

こども  
 おとなが あそぶ  かみで できている  
 おちる もの  えきにある

なさいでよまなそう!  
 こうえん てつ こども すべる

**ことばの連想 \* 連鎖的連想**

かんけいのあることばを つなげていこう 1

りんご	あか	ひよこ	とけい	
	きいろ	ポスト	でんしゃ	かく
	しろ	たまご	かき	
	くろ		てがみ	

**質問に答える**

きょうのお昼ごはんは何だった？

今日は月曜日だから・・・給食で・・・

給食は・・・スープとか出るけど・・・  
 あ、みそ汁だ！・・・えーと・・・あと  
 デザートも出るけど・・・りんごだ

給食に関連する事柄の連想

記憶の想起は、連想に頼っている部分が大

**おしゃべりをする**

今日、給食、カレーだったよ。あ、カレーで思い出したけど、ニンジンって、とっても栄養があるんだって。「生活」のとき、先生が言った。「生活」って、面白いときと、面白くないときが、あるなあ・・・

ことばとことばが連鎖して、おしゃべりが続く

**ことばの位相**

**\* 階層性 < X < の関係**

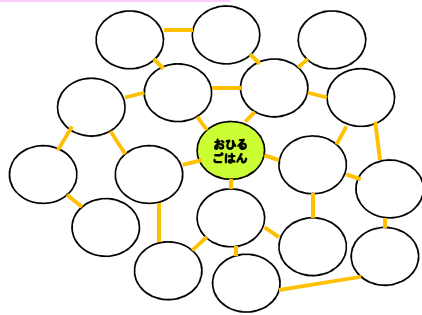
ゾウやサルがいたよ 動物園いったな  
 ケーキだったよ チョコかなイチゴかな

**\* 条件性 X ≠ の関係**

女の子だったよ けん君じゃないな

情報からの類推により会話が進行

**語彙のネットワーク**



ことばとことばの関係がコミュニケーションを支える



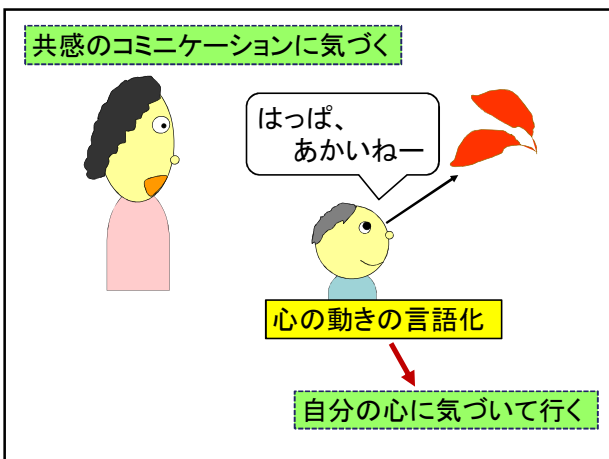
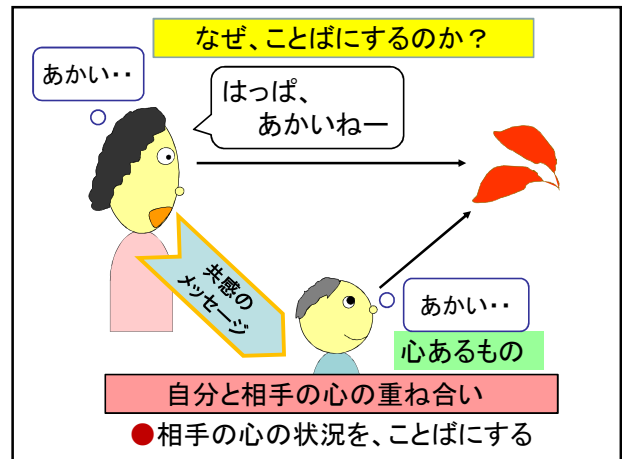
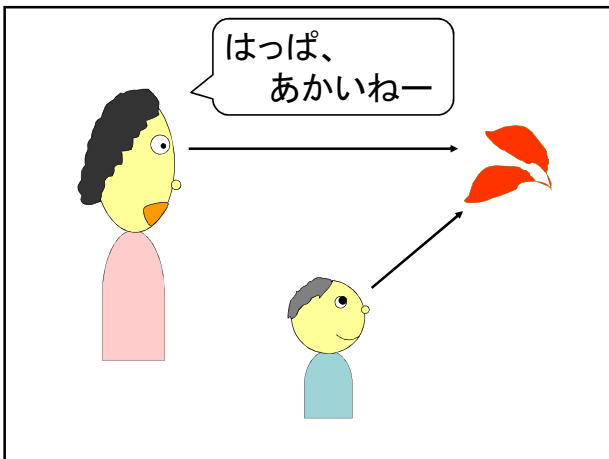
日常のコミュニケーションの中で

「きれい」や「はやい」や「まわる」や「つつく」は、どんなときに言うか？

状況を言語化するとき



共感のコミュニケーション



共感のコミュニケーション  
に対する意欲



心の状況の言語化に対する意欲



語彙習得を促すもの

見えたもの、聞こえたもの・・・  
感じたことをことばにしよう！

【参考・引用図書】

- 「こどもの認知発達」新曜社
- 「レキシコンの構築」大修館書店
- 「階層的カテゴリーの機能とその発達」北大路書房
- 「ことばをつくる」慶応義塾大学出版
- 「幼児期」岩波新書
- 「日本語の文法」ひつじ書房
- 「はじめての日本語教育」アスク講談社
- 「心の生得性」共立出版
- 「子どもたちの言語獲得」大修館書店
- 「ことばの発達と障害」大修館書店

【参考文献】

- 「認知意味論と第2言語習得」信州大学教養学部紀要 23号
- 「カテゴリーの研究」名古屋大学教育学部紀要 27号

